

羽田空港のこれから



2020年の羽田空港 国際線増便の実現に向け、 準備を進めていきます。

進化を遂げながら日本の成長を支えてきた羽田空港と成田空港は、急速なグローバル化に伴い、今まで以上に玄関口としての機能を果たしていくことが求められています。しかし、羽田空港は現在フル稼働しており、現状のままでは増便が図れない状況にあります。様々な方策を検討した結果、滑走路の運用・飛行経路を見直すことで、1日に約50便の増加が可能であると分かりました。この新しい飛行経路については、各地域で説明会を開催し、多くの方々のご意見を伺ってまいりました。その上で、頂いたご意見も踏まえ環境への影響等に十分配慮しながら、必要な手続きを経た上で、2020年の羽田空港国際線増便の実現に向け、準備を進めてまいります。そのような取り組みについて、より多くの皆様に分かりやすい情報発信を引き続き行ってまいります。



Q1

国際線の増便にはどんなメリットがあるのですか？

海外からビジネスや観光などでの訪日が増え、首都圏だけでなく全国を元気にします

羽田空港の国際線が増便されることで、ビジネスや旅行の幅が広がります。人やモノの流れが活性化され、年間約6503億円の経済波及効果や、約4.7万人の雇用増加等が期待できます。



しかし現在、羽田空港は深夜・早朝の時間帯を除いてフル稼働。このままでは国際線を増便することはできません。

Q2

どのようにすれば便数が増えるのですか？

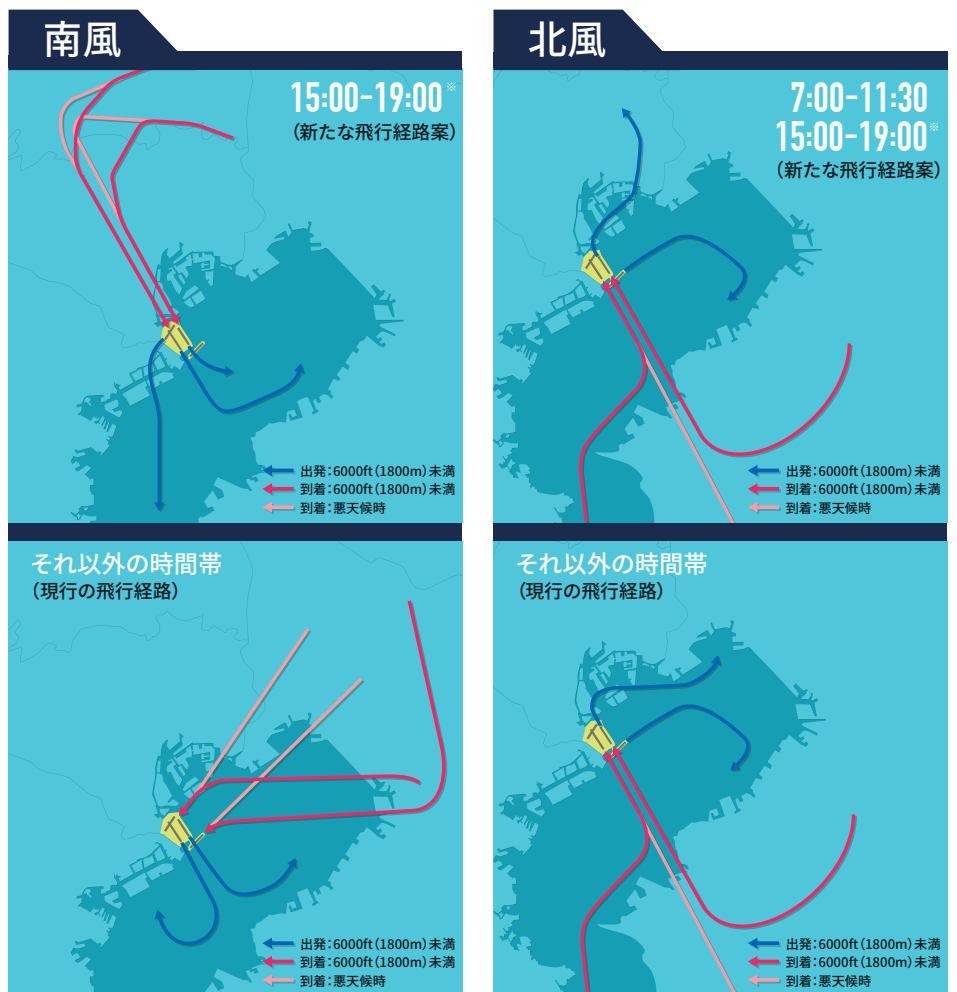
滑走路の使い方・飛行経路を見直すことにより国際線の便数を増やすことができます。

東京湾上空は大変混雑しており、仮に新しい滑走路を作ったとしても、発着回数はほとんど増やすことはできません。新しい滑走路を作らなくても、滑走路の使い方を見直し、これに合った飛行経路を設定することで、発着回数を増やすことができます。

POINT

南風と北風が多くみられる羽田空港では、風向きに合わせて2通りの滑走路の使い方があります。それぞれについて、より効率的な使い方を検証しました。

※15時～19時については、4時間のうち実質3時間程度の運用



滑走路の使い方・飛行経路などを見直すことにより、深夜・早朝時間帯以外の国際線について、最大で年間約3.9万回(約1.7倍)の発着回数の増加が可能となる試算となります。

数字で見る 羽田空港

(2017年のデータより)

国内線



利用客
1日約

181,000人



発着数
1日約

1,000回



就航先

48都市

国際線



利用客
1日約

43,000人



発着数

1日最大約
220回



就航先

18カ国
30都市

Q3

騒音が気になります。どのような対策をしますか？

騒音 対策

皆さまから頂いたご意見を踏まえ、騒音対策を徹底いたします。環境への影響をできる限り小さくするために、取組を実施します。

☑ 新飛行経路の運用時間を限定。

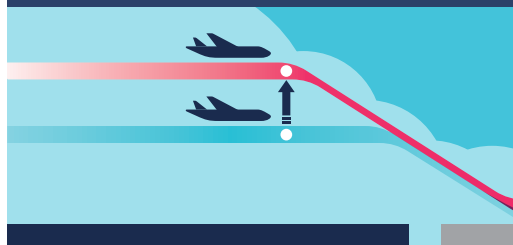


・北風時
7:00-11:30、
15:00-19:00※
・南風時
15:00-19:00※

国際線の需要が集中する時間帯に絞るなど、新飛行経路の運用時間を上記の通り限定します。

※15:00-19:00については、4時間のうち実質3時間程度の運用。

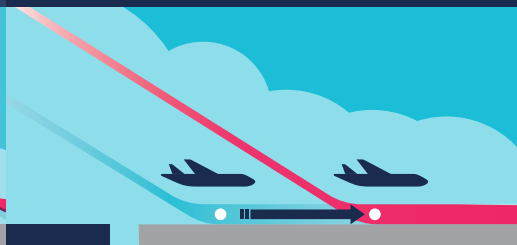
☑ 到着経路の高度引き上げ。



南風時の新しい到着経路の高度を最大で約600m(2,000ft)引き上げ、聞こえる航空機の音を軽減します。

・3,000ftから4,000ftに引き上げることで、約2~4dB軽減
・3,000ftから5,000ftに引き上げることで、約4~7dB軽減

☑ 南風時の着陸地点を南側へ移設。



南風時の新しい到着経路において、着陸地点を南側に移設します。これにより着陸前の直線部の飛行高度を約20m引き上げることを実現します。

☑ 防音工事の助成対象施設を拡大。



教育施設等の防音工事の助成制度についての基準を見直し対象地域を拡大するとともに、これまでの学校や病院などに加えて、小規模保育施設等を新たに対象施設として追加しました。

☑ 着陸料に騒音の要素を追加。



羽田空港の国際線着陸料について、低騒音機の導入を促進するため、航空機の重量のみに基づく従来の料金体系から、重量と騒音の要素を組み合わせた料金体系へ見直しを行い、平成29年4月より実施しています。

☑ 騒音測定局を増設。



新しい飛行経路の導入に伴い、騒音測定局を増設することを計画しています。そして、測定結果の分かりやすい情報提供に取り組んでまいります。

☑ 騒音のモニタリング結果を公開。



現在の羽田空港の飛行経路については、16箇所の騒音測定局を設置し、常に状況を測定しています。その結果は、東京航空局のホームページで公開しています。

Q4

落下物が心配です。具体的な対策について、教えてください。

落下物対策

皆さまから頂いたご意見を踏まえ、落下物対策を徹底いたします。世界に類を見ない厳しい基準を策定し、方策を強化します。

✓ 駐機中の機体を抜き打ちでチェック。



抜き打ち検査を実施するなど、空港管理者による新たなチェック体制を構築します。さらに、成田・羽田空港を重点化し、外国航空機への検査を強化していきます。

✓ 部品欠落の報告制度を拡充。



日本の航空会社だけでなく、日本に乗り入れる外国の航空会社に対しても、航空機の部品欠落が発覚した場合の報告制度を拡充します。

✓ 落下物に関する情報を徹底収集。



全国の空港事務所等に対し、落下物情報の報告について再度徹底します。また、警察にも協力依頼をしています。

✓ 整備・点検の徹底を指導。



羽田空港に乗り入れる国内外の航空会社に対し、適切な整備・点検の徹底を繰り返し指導していきます。また国際会議においても、乗り入れ各国に対して注意喚起していきます。

✓ 落下物の原因分析を強化。



氷塊付着状況調査の拡充等により、落下物発生状況の分析を強化します。また、氷塊や部品の衝突実験によるデータを収集し、落下物認定等への活用を検討しています。

✓ 落下物の原因者へ処分等を検討。



落下物の原因者である航空会社（国内外を問わず）に対して処分等を行う方針であり、具体的な内容や手続きを検討していきます。

✓ 被害者への補償等を充実。



航空会社に対し救済制度(保険)への加入を義務化します。また、落下物による被害が生じた場合、空港の運営者等から見舞金を給付するなど補償を充実させます。

日本の経済・社会にとって、重要な役割を担う羽田空港。

私たちや次の世代が、より豊かな生活を実現するために、羽田空港の成長は欠かせません。

2020年に向けた「羽田空港のこれから」について、出来るだけ多くの方に知っていただき、ご理解を頂けるよう、正確でわかりやすい情報提供に引き続き取り組んでまいります。

お問い合わせ窓口



WEBSITE

国土交通省ホームページに特設ページを設けています。

<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

羽田空港のこれから

検索



TELEPHONE

電話でのお問い合わせは

Tel 0570-001-160

(IP電話からは 03-5908-2420)

『国土交通省「羽田空港のこれから」に関する電話窓口』
受付時間：平日9:30～19:00

